

そ の 他 の 調 査

平 城 宮 跡 発 挖 調 査 部

服部遺跡（倉吉市服部） 倉吉市教育委員会が、同市服部地区の圃場整備事業にともなう事前調査として国庫補助金を得て実施した。1972年7～9月。佐藤が参加した。古墳6、住居跡11を調査し、古墳時代前期から後期にわたる資料を得た。倉吉市教育委員会『鳥取県倉吉市服部遺跡発掘調査報告・遺構篇』（1973年3月）参照。

三ツ塚遺跡（兵庫県氷上郡市島町） 市島町による三ヶ年計画初年度の調査。1972年7～9月。工楽・田辺が参加した。調査地域は三ツ塚廃寺跡の東側一帯で、小規模な掘立柱建物6棟を検出した。出土遺物は弥生式土器と奈良から平安時代にかけての土器類・瓦。市島町教育委員会『丹波三ツ塚遺跡I一昭和47年度調査概報』（1973年3月）参照。

宮代廃寺（岐阜県不破郡垂井町宮代字森下） 垂井町教育委員会による発掘調査。1972年8月。八賀が参加した。町道拡張に伴うもので、塔跡の発掘と寺域の確認をおこなった。塔は瓦積基壇で、一边12m四方あり、奈良時代末に建てかえがあったことが判明した。

能登国分寺（七尾市国分町・古府町） 七尾市教育委員会による発掘調査。1972年9・10月。甲斐・黒崎・佃が参加した。3次にわたる調査の最終年度として、講堂跡の検出による伽藍配置と中門・南門・北面築地検出から寺域の確認をおこなった。寺域外南側で礎石建物群の存在が注意される。七尾市教育委員会『能登国分寺跡発掘調査報告』（1973年1月）参照。

横見廃寺（広島県豊田郡本郷町） 広島県教育委員会による第3次発掘調査。1972年9～11月。松下が参加した。東方建物の規模を明らかにすると共に、寺域の南限を確認し得た。広島県教育委員会『安芸横見廃寺の調査』Ⅱ（1973年3月）参照。

尊勝寺跡（京都市左京区聖護院円頓美町） 京都国立近代美術館が実施する発掘調査に、六勝寺研究会と奈良国立文化財研究所が協力した。1972年12月～1973年2月。工楽・藤村・小笠原・佃・上野が参加。寺域北西隅に近いところで、5間×2間の身舎の周囲に3重に柱をめぐらした規模の大きな礎石建物1棟が明らかになった。京都国立近代美術館『尊勝寺跡発掘調査概報』（1973年4月）参照。

周防国衙跡（防府市東佐波令） 防府市教育委員会による発掘調査。1973年3月。沢村・宮沢・菅原・岡本が参加した。国衙南限地域を調査し、築地痕跡・溝・朱雀路側溝を確認した。周防国衙跡調査会『史跡周防国衙跡発掘調査概要報告書』（1973年）参照。

じょうべのま遺跡（富山県下新川郡入善町） 富山県教育委員会による発掘調査。1973年3・4月。伊東・佃・高島が参加した。前年に引き続き、平安時代末から鎌倉時代にかけての荘園関係の建物群の発掘をおこなった。富山県教育委員会『じょうべのま遺跡発掘調査概報』（1973年3月）参照。